

平成 28 年度 校内研修計画（案）

1 研究主題

読み取る力を育む学習指導の工夫（二年次）

～「教えて考えさせる授業」の研究を通して～

2 主題設定の理由

学習指導要領では、「生きる力」を育むことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことを目標としている。

それを踏まえ本校では、平成 23 年度より「教えて考えさせる授業」を研究、実践してきた。平成 23 年度から平成 26 年度までの 4 年間は算数科において「確かな学力」を身につける指導の工夫改善に取り組み、一定の成果が挙げられた。しかし、国語科において「言語事項」「読解力」が課題として明らかになった。そこで、平成 27 年度は、国語科で「教えて考えさせる授業」の学習過程を取り入れ、主に『伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項』の指導の研究を進めた。また、読み取るために必要な「用語」（指導すべき言語事項）の確実な指導を行ってきた。

しかし、全国学力・学習状況調査、県学力到達度調査、漢字テスト等の結果や日常の学習の場面から、漢字力・言語力の弱さが大きな課題となった。文章を読み取ったり、書いたりする力を身につけるためには、漢字力・言語力が必要であると考え、本年度の研究の柱を、以下の 2 点とする。

- ①国語科における「教えて考えさせる授業」の学習過程を確立し、「理解深化問題」の研究を深める。
- ②モジュール学習と連動させた「漢字学習」の指導の工夫・改善を行う。

3 研究目標

- ・「教えて考えさせる授業」の学習活動の展開や指導法について研究を深める。
- ・当該学年までの漢字の読み書きを確実に身につけさせるための指導法を研究する。

4 研究仮説

- (1) 「教えて考えさせる授業」で効果が得られる単元を精選し、課題に即して、主体的に思考し高め合う共同学習の場面を設定することにより、身につけさせたい力を育むことができるであろう。
- (2) 漢字力・辞書引き力・読書力を朝の「モジュール学習」と連動させて指導の工夫・改善に取り組むことにより、確実に漢字力が身につくであろう。

5 研究の方針

- (1) 研究を進めるに当たっては、「学校経営方針を基盤にした授業力の向上」という目標のもとに、授業改善の視点から実践的な研究を展開する。
- (2) 研究主任は、学校長の経営方針を受け、前年度の反省や学校課題の改善に向け、校内研修の企画・運営を行う。

- (3) 推進委員会は、研究の推進と全体的な課題及び調査等に努める。
- (4) 研修時間の確保を図るため、研修日を位置づけるが、必要に応じて他に時間を設けることもある。
 - ・定例研修日・・・・・・・・第4金曜日
 - ・校内研推進委員会・・・・第2火曜日
- (5) 授業力の向上、同僚性を生かしたOJTを推進する観点から、全員が授業を公開し合い、授業研究を行う。
 - ① 日常的な授業研究を行う。
 - ② 主事招聘授業は、ワークショップ型授業研究会で**5回（2～6年）**行う。
- (6) 研修の実践記録、成果と課題等を「研究報告書」としてまとめ、研修の共有化及び次年度の研修の発展に資する。
- (7) 校内研修と学力向上推進対策との緊密な連携を図る。

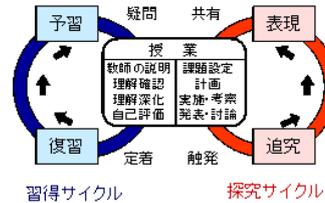
6 研究内容

- (1) 読み取る力を育成するための実践
 - ① 「教えて考えさせる授業」の実践を通して、国語科における指導方法の工夫・改善を行う。
 - ・「予習→教える→考えさせる→復習」という一連の流れを徹底し、学習機会を積み重ねることで、児童に確かな学力を身につけさせる。
 - ・「理解深化問題」の立て方や思考の交流のさせ方を研究する。
 - ・読み取るために必要なスキルを確実に指導する。
 - ・学習形態（一人学び・ペア学習・グループ学習・一斉指導）の工夫
 ※新任を対象とした「教えて考えさせる授業」の算数の授業研究も推進する。
 - ② 「モジュール学習」の実践
 - ・漢字の学習（前倒し学習、家庭学習・さよなら問題との連動、辞書引き）
 - ・放課後支援の工夫。（学習支援ボランティアの活用）
 - ・読解問題（知識A・活用B）のスキルを身につける学習
 - ・読書の深化・発展（教材との関連図書）
 - ③ マイノート（板書と連動したノート指導）の工夫。
 - ④ 言語環境の整備及び学習材の工夫（声のものさし・話型・辞書引き学習等）
 - ⑤ 検証授業（全体研…2～6年、1年は学年研）
 - ・うるま市実践9項目を踏まえた指導案の工夫
 - ・ワークショップ型授業研究会
 - ⑥ 全国学力・学習状況調査、県到達度調査、市学力調査等の結果分析を行い、日々の授業実践に生かす。
- (2) 教育機器活用の工夫・改善
 - ・電子黒板・デジタル教材、学習支援ソフトの活用
- (3) 修養
 - ① 外部講師による理論研修を深め、実践力の向上を図る。
 - ② 校外研修（市教育講演会・市学推授業研究会等）への参加。
 - ③ その他（外部研修会・教育センター夏期研修・各種講座への参加）

7 「教えて考えさせる授業」とは

○東京大学大学院教育学研究科教授市川伸一氏により提唱された授業展開である。

○「予習－授業－復習」を通して既存の知識や技能を身に付けさせる「習得サイクルの学習」と、自らのテーマに沿って問題を追及する「探求サイクルの学習」を有機的に関わらせていく学習方法である。



○基本の流れ

予習	学習の見通しを持たせる
教える	<p>《教える》</p> <p>必要な知識や技能をわかりやすく教える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の基本的な例題で教える。 子ども達の発言を生かして教える。等
考えさせる	<p>《理解確認》</p> <p>子ども同士の教え合いや説明活動、類似問題等で理解の状況を確実に把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教えた問題や教材を少しだけ変えたもので確認する。 教科書の練習問題で確認する。 実際に試して確認する。(理科等)
	<p>《理解深化》</p> <p>獲得した知識や技能を活用して発展問題等に取り組み、理解を深めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力学習状況調査B問題の活用 読解力や情報処理能力が必要な問題 (情報過多・不足の問題等) 発展問題に取り組みさせる。 条件を変えた実験に取り組みさせる。(理科) 等
	<p>《自己評価》</p> <p>診断テストや自己評価(メタ認知)等により定着度を診断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な問題で診断する。 質問カードやチェックリスト等で振り返らせる。 わかったことを記述させる。等
復習	定着と学習の習慣化へ

○指導のポイント(国語)

予習	教科書を音読する。試写する。等
教える	<p>《教える》</p> <ul style="list-style-type: none"> 読む、書く、話す・聞く、視点とその生かし方を教える。 言葉の働きやきまりに関する事項等を教える。 特徴的な語や文、場面に注目させ、知識や技法を教える
考えさせる	<p>《理解確認》</p> <ul style="list-style-type: none"> 教えた知識や技法が他の語や文、場面で使えるか確認する。 具体的な表現活動を取り入れる。 <p>《理解深化》</p> <ul style="list-style-type: none"> 教えた知識や技法を使って本時の中心課題にせまらせたり、生活場面に広げたりして、理解を深めさせる。 書く活動を取り入れる。 考える時間を与え、その時間内で解決できる力を育てる。 <p>《自己評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読や書く活動等の表現活動を通して学習をふり返らせ、自己評価させる。
復習	生活に目を向けるような課題音読 等

※長崎県教育センターの資料より

9 年間計画

月	日	曜日	研修形態	内 容	担 当	備 考
4	6	水	全体会	校内研修について ・主題 ・仮説 ・年間計画 ・役割 等	研究主任	確認
				スズキ校務, 週案について		新任職員
				「教えて考えさせる授業」について 年 授業公開 (算数科)	麻紀	新任職員
5	27	金	全体会	年 検証授業①	年	主事招聘
6	3	金	全体会	年 検証授業②		主事招聘
	24	金	全体会	年 検証授業③		主事招聘
7	1	金	全体会	スズキ校務活用について	山入端	
	27	水	全体会	「確かな学力」を育む算数科の授業づくり		出前講座
	28	木	全体会	実技研修「図工科」		校長
	29	金	全体会	市教育講演会		
8	1	月	全体会			校 外
9	30	金	全体会	年 検証授業④	年	主事招聘
10	28	金	全体会	年 検証授業⑤	年	主事招聘
12	26	月	学 年	実践のまとめ	学年	
1	27	金	学 年	校内研修反省 (成果と課題)	学年	
2	24	金	全体会	次年度計画	研究主任	
3			全体会	次年度校内研修の提案・確認	研究主任	